

北大植物園の ライラック

YOSAKOIソーラン祭りであわ
大通公園を後にして、道庁裏
の北大植物園に寄ってみた。
母方の従兄と会うまで、十分
な時間がある。

2022.6.12 島田祥生

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園概要

この植物園は、北海道大学の施設として研究と教育、植物および博物資料の体系的な収集・保存・活用を主な目的としています。創立当初から一般に公開され、市民の自然教育に役立つように運営され「北大植物園」として古くから親しまれています。

植物園の歴史の始まりは、はるか明治の初めにさかのぼります。開拓使はうっそうとした原生林の広がる道庁の西側を牧羊場と定め、明治15年その中に博物場を建てました。一方、札幌農学校（北海道大学の前身）の教頭であったクラーク博士は、明治10年に開拓使長官に対して、植物学の教育・研究には植物園が必要であると進言したことが機縁となり、明治17年（1884）博物場とともに植物園用地が札幌農学校へ移管され、初代園長となる宮部金吾博士によって植物園の計画・設計がなされ、明治19年（1886）現在の原形が完成しました。

面積13.3haの園内には約4,000種の植物が育成・保存されています。植物園は石狩川の一支流である豊平川によってつくられた扇状地に位置しており、園内は緩やかな起伏に富み、大正の終わりごろまでは各所で泉が湧き出る地味豊かな場所でした。植物園には開園当時のハルニレ、イタヤカエデ、ミズナラ、ハンノキ、ドロノキなどを主体とした広葉樹林が残っており、現在では開発によって失われてしまった石狩低地帯の原植生の面影を残す貴重な場所にもなっています。

園内には、温室、高山植物園、草本分科園、北方民族植物標本園、エンレイソウ実験園、樹木園、灌木園などの標本園が整備されており、各テーマにそって植栽・展示がなされています。また、博物館建物群と植物園門衛所は平成元年（1989）に国の重要文化財に指定されています。北海道を中心とした学術上貴重な自然史・歴史資料を展示する博物館、北方民族の生活・文化資料を展示する北方民族資料室があります。



植物園に入っすぐ、
「宮部金吾記念館」の
案内板が。

矢印の方に行くと、
色々なライラックが
咲いていた。

名板には、「○○ハンドイ」

宮部金吾記念館
MIYABE MEMORIAL HALL



宮部金吾記念館

宮部金吾（理学博士、1860-1951）は、明治10年札幌農学校二期生として、内村鑑三、新渡戸稲造、南鷹次郎、町村金彌らと学び、業を卒^おえて東京大学、更にハーバード大学の学位を受け、母校に奉職して今日の北海道大学発展に深く寄与し、北海道、千島、樺太を踏破して北辺の植物研究に携わった。明治16年植物園の設計に参画し、初代園長として永年当園の完成に盡^{つく}した。昭和2年退職後も、昭和26年91歳の一生を終えるまでひたすら学究の日を送り、こよなく当植物園を愛された。内に帝国学士院会員として活躍し、外に多くの海外学会の名誉会員に推され、更に昭和21年文化勲章を受章した。

又、青年寄宿舍舎長として有為の青年を育成し、札幌独立教会設立者の一人として敬虔な清教徒の生涯を過ごし、昭和24年90歳の賀に、最初の札幌市名誉市民の称号を受け、市民敬慕の的となった。

平成2年、子息一郎氏の御厚意により遺品が寄贈されたのを機に、博士の薫陶を受けた農業生物学科卒業生を中心として記念館設立の要望が起こり、北大当局、農学部、札幌同窓会の支援を得て、平成3年実現に至った。当記念館はかつて博士が講義、研究をされた札幌農学校植物学教室（明治36年現在の農学部南翼に建築）を昭和17年現在地に移設し、永く園長室、園事務所とした由緒ある建物の一部である。




木陰気味の道の両側に、
形・色の違うライラックが
並んでいた。
何故、「ハシドイ」と言う
のだろう。

ライラック

SYRINGA VULGARIS

モクセイ科ハシドイ属の落葉灌木で、5月から6月にかけて美しい花を房のように咲かせる。香りが良く、香水も作られている。ライラックは英名、フランス名はリラ、和名はムラサキハシドイまたはハナハシドイ。ヨーロッパ南東部の原産で冷涼な気候を好み、日本では北海道に明治中期に入り、広く栽培される。園芸品種も多い。日本に自生するハシドイは同じ仲間、小高木になり白い花を咲かせる。

(モクセイ科)



その先の開けたところに、
「ハシドイ」の並木があった。
盛りをちょっと過ぎた感じ。
でも、きれい。



接写レンズをホテルに置いてきたので、これが限界。残念。

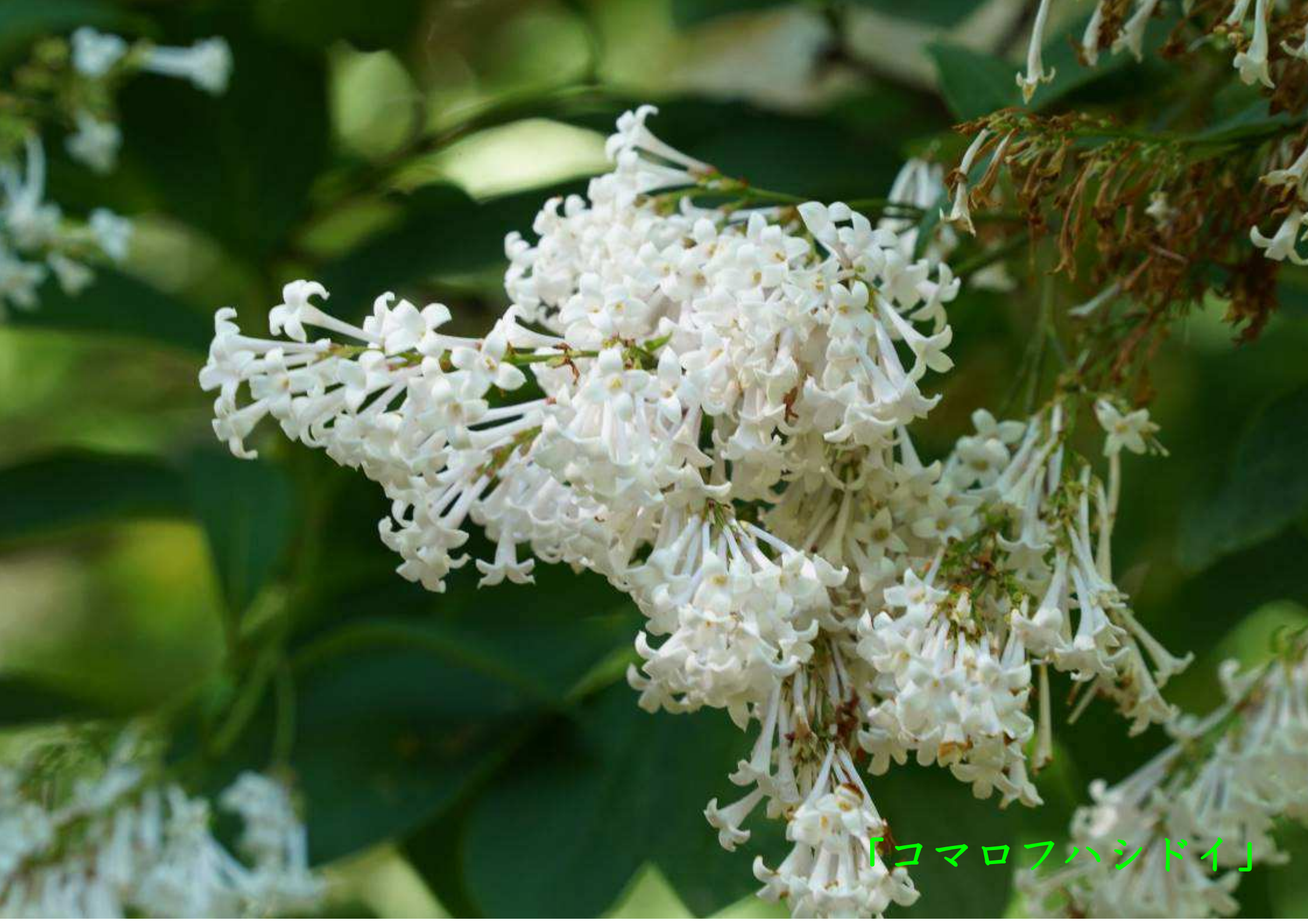
「ヘンリーハシドイ」



「ウスゲハシドイ」



「ハンガリーハシドイ」



「コマロフハシドイ」



「ヒマラヤハシドイ」



「ウスゲシナハシドイ」



「ワタゲハシドイ」



ライラックは、
スクッと立っている
ほどほどの高さの木を思うが、
「ハシドイ」は、灌木だそうです。



「ハシドイの並木道」

いや、やはり、

「ライラックの並木道」

いや

「リラの並木道」

かな



木立に埋もれた

「重要文化財 北海道大学農学部植物園・博物館」



歴史を感じる陳列棚。
上は、海産物の加工品
下は、鳥のたまご

「タロ」に会えた！




樺太犬タロ

1956年第一次南極地域観測隊にソリ犬として参加した樺太犬は、調査活動で活躍したが、1958年1月、隊員交代のため派遣された宗谷丸が天候不良のため接岸できず、犬15頭が無人の地にとり残された。翌1959年1月、1年ぶりに再訪した隊員によってタロとジロの生存が確認された。ジロはその後越冬中の1960年7月に昭和基地で死亡した。タロは4年余を南極で過ごした後、1961年5月に帰国し、その後は14歳7カ月の老衰で死亡するまで、9年余の間、当博物館で飼育された。なお、ジロの標本は東京の国立科学博物館に保存されている。

樺太犬タロ

1956年第一次南極地域観測隊にソリ犬として参加した樺太犬は、調査活動で活躍したが、1958年1月、隊員交代のため派遣された宗谷丸が天候不良のため接岸できず、犬15頭が無人の地にとり残された。翌1959年1月、1年ぶりに再訪した隊員によってタロとジロの生存が確認された。ジロはその後越冬中の1960年7月に昭和基地で死亡した。タロは4年余を南極で過ごした後、1961年5月に帰国し、その後は14歳7カ月の老衰で死亡するまで、9年余の間、当博物館で飼育された。なお、ジロの標本は東京の国立科学博物館に保存されている。



ここからしばらく、
鬱蒼とした園内を散策してみてください。







A photograph of a dirt path winding through a lush forest. The path is illuminated by sunlight filtering through the trees, creating a pattern of light and shadow on the ground. The trees are tall and dense, with vibrant green foliage. The overall atmosphere is peaceful and serene.

YOSAKOI ソーラン祭りの「動」と

北大植物園の「静」

今日は、

その両方を味わえた1日だった。